

協和地区義務教育学校整備事業 基本構想・基本計画【概要版】

基本構想・基本計画の目的

全国的に少子化が進むなか、本市においても児童生徒数の減少による学校の小規模化が進み、協和中学校区においては、小学校3校のうち2校が適正規模を満たしておらず、将来にわたり、安定して適正規模を維持できる環境整備が喫緊の課題となっています。

この基本構想・基本計画は、協和中学校区におけるより良い教育環境の整備を目指し、施設一体型義務教育学校の整備に関する基本的な方針を明らかにすることを目的に策定します。

基本構想

協和中学校区の現状

■R7年度・R12年度(将来推計)の児童生徒数(人)

児童生徒数（上段：R7年度（R7.5月現在） 下段：R12年度（将来推計）												
小学校								中学校				
学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	学校名	1年	2年	3年	計
古里小	15	12	11	27	17	18	100	協和中	82	98	106	286
	10	16	14	18	14	16	88		79	74	99	252
新治小	47	57	65	65	68	56	358					
	32	47	42	54	38	50	263					
小栗小	9	13	8	15	24	21	90					
	5	9	7	10	14	10	55					
小学校計	71	82	84	107	109	95	548	中学校計	82	98	106	286
	47	72	63	82	66	76	406		79	74	99	252
								令和7年度合計			834	
								令和12年度合計			658	

■学校施設の現状(R7年現在)

学校名	築年数
古里小	42～59年
新治小	38～58年
小栗小	34～60年
協和中	13～46年

施設整備の基本方針

1 小中一貫教育に適した機能的でコンパクトな施設

- ・最善な校内動線を検討したまとまりある施設配置
- ・児童生徒間の交流を適切に行える交流拠点
- ・9年間の系統性ある教育を連携して行える管理関係室

2 誰もが明るく快適に過ごせる施設

- ・内装材の木質化等、温かみと潤いのある教育空間
- ・バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入
- ・ニーズに応じた多様な学びの場

3 確かな学力を育む施設

- ・多様な学習形態に対応し、主体的・対話的な学びが可能な施設
- ・きめ細かい指導を行える学習環境
- ・ICT技術を活用でき、技術の進展に対応する環境

4 安全・安心で維持管理のしやすい施設

- ・自然災害に対して安全性を確保した災害に強い施設
- ・全体的な防犯計画を検討し、児童生徒及び教職員が安心して過ごせる施設
- ・安全なスクールバスの動線や乗降場の計画
- ・ライフサイクルコスト(LCC)縮減、維持管理のしやすい施設

5 将来の公共施設複合化を見据えた施設

- ・将来的な学びの変化や児童生徒数の減少等に柔軟に対応できる施設
- ・施設の一部を地域に開放できるような施設配置
- ・将来的に、地域の生涯学習やコミュニティの活動の場としても利用が可能な施設配置



整備スケジュール

年度	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12
基本設計・ 実施設計	■	■	■			
本工事			■	■	■	■
開校準備						■

【整備予定地位置図】



基本計画

全体計画

変化に柔軟に対応し、維持管理がしやすい施設の整備

- ・教育内容や教育方法の変化に対応し、多様な学習内容・形態、ICT教育、個に応じた指導に対応できる多機能な学習環境の確保

健康的かつ安全で豊かな施設環境の整備

- ・日照、採光、通風等に配慮した良好な環境を確保し、十分な防災性、防犯性など安全性を備えた施設環境を整備

将来の公共施設複合化を見据えた施設の整備

- ・将来、地域の生涯学習やコミュニティの場、まちづくりの核として活用できるよう、施設のバリアフリー化を図り、必要に応じて他の文教施設や指定避難所等としての役割を果たすことができる施設を整備

配置計画

敷地利用

- ・児童生徒数の変化に柔軟な対応が可能なコンパクトな施設配置
- ・敷地拡張予定地を含めた効率的な施設配置
- ・防犯面や事故の防止に十分配慮したスクールバスの動線

既存の中学校校舎との連結

- ・既存校舎と新校舎を連結し、施設一体型としての機能を発揮
- ・既存校舎の構造、施設状況を考慮した配置、動線
- ・交流拠点を適切に整備し、系統性を踏まえた学習指導ができる施設配置

安全・安心に配慮した配置

- ・防犯対策に配慮した施設配置
- ・災害時の避難所機能への配慮

使いやすさ・将来の公共施設複合化への配慮

- ・既存校舎と新校舎の両校舎を管理しやすい管理関係室の配置
- ・将来の学習形態の変化にも容易に対応できる施設配置
- ・他施設との複合化にあっても円滑な管理運営ができる施設配置

各室計画

- 普通教室…採光や通風、ネットワーク環境などに配慮。多様な学習形態に対応。
- 特別支援教室…落ち着いた環境を確保。可動間仕切り等での分割を想定。
- 特別教室…既存校舎との共有化。多様な調べ学習を支援するメディアセンター整備。
- 屋内運動場…地域開放を見据えた計画。避難所として空調設備や通信環境の整備。 など

屋外計画

- 屋外運動場…授業や行事、地域開放を見据えた面積や形状、配置の計画。遊具の整備。
- 駐車場…来校者や職員、保護者の送迎等の利便性に配慮。ゆとりある必要想定数。 など

防犯計画

- 建築計画…死角を少なくする配置。危険を察知し、緊急時に対応できる職員室等の配置。
- 防犯設備…防犯カメラやインターホンの適切な配置。外灯の設置。 など

整備概要・設計条件

施設名称	(仮称) 協和地区義務教育学校		建築規模	延床面積 (予定)	校舎 屋内運動場	4,800 m ² 程度 1,000 m ² 程度
計画地	所在地	茨城県筑西市門井1803番地7		構造	校舎 屋内運動場	R C造等 S造等
	敷地面積	市有地 57,077 m ² (学校施設台帳面積) ほか一部敷地拡張予定		階数	校舎	3階